

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合が、85%以上である。	・積極的に声をかけをするなど、日頃から生徒の様子に注意を払い、学校生活を支える。 ・アンケートによる実態把握を行う。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「楽しく学校生活が送れている」と回答した生徒は、1回目91%・2回目86%となり目標の85%以上となった。保護者からの回答は1回目83%・2回目84%である。学校が好きなきもちが家庭にも伝わっていることが確認できた。大切な居場所としての学校を、より安全安心な環境にしていきたい。 ・「学校行事に積極的に参加している」と回答した生徒は、1回目91%であったが、2回目81%となった。生徒会行事などでは、生徒会役員が意見を出し合い、魅力的な行事にするべく活動している。来年度に向けて生徒・職員間での活発な意見交換を進め、生徒同士が協働する活動を増やすことなどで、各行事の更なる活性化を図りたい。 ・「ふれあいの時間に積極的に取り組んでいる」と回答した生徒は、1回目・2回目ともに90%以上となった。生徒は授業の進め方を理解し、活発に取り組んだ。自己の目標と評価をファイルにまとめている。4年生の実施内容と目標設定を改良したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制の特徴である、少人数での指導環境を生かし、一人一人に寄り添った指導を継続してもらいたい。また、様々な生徒の特性に応じて、生徒の目線に立った指導をしていただきたい。 ・生徒と教員の距離が近く、人間関係が構築できているように感じる。今後も、生徒の話に耳を傾け良好な関係で生徒が安心して生活を送ることができるよう支援をしてもらいたい。 ・教育ビジョンが示され、生徒が主体的に生き生きと取り組んでいることがわかる。学年を超えての交流で様々な経験をさせていきたい。
		② 球技大会やクリスマス会、4年生を送る会などの特色ある学校行事に、生徒の85%以上が満足している。	・各種行事で、職員と生徒が連携し、企画の立案・運営を実践する。 ・アンケートによる実態把握を行う。	A	A	A		
		③ 総合的な探究の時間(「ふれあいの時間」)に、主体的に取り組んでいる生徒の割合が、85%以上である。	・「ふれあいの時間」では他学年の生徒との交流や、各自が設定したテーマに沿って積極的な活動ができるように支援する。 ・アンケートによる実態把握を行う。	A	A	A		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 授業に対する生徒の評価を実施して、授業改善を推進する。「授業が分かりやすい」と回答する生徒の割合が85%以上である。	・生徒の実態に応じた協働的な学習(学び合い学習)を実践する。 ・カウンセリングマインドに立った授業改善に努める。 ・ICTの活用を推進する。 ・アンケートによる実態把握を行う。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業がわかりやすい」と回答した生徒は、1回目・2回目ともに85%以上であった。先生方が生徒個人個人の実態に応じた指導を心がけており、職員間で生徒の情報を共有する姿勢が見られる。また、生徒自身も発言やまとめなどを通し、自ら学ぶ姿勢を持っている。前向きな視点を持つようになったのは、ふれあいの時間や行事の成果と考えられる。教員と生徒のコミュニケーションが成立していることが、生徒個々に応じた指導ができていく要因である。今後は評価方法の改善と、協働的な学習とICT活用をより一層進めることで、生徒の学習改善と授業改善につなげていきたい。 ・専門知識の習得及び各種検定試験に合格する体験を積ませ、一人ひとりの生徒が自信をもって進級、卒業できるよう丁寧に指導ができていく。「社会で役立つ知識や技能が身につく授業が行われている」と回答した生徒は1回目・2回目ともに95%以上であった。全教科で実社会とのつながりを意識した授業を実践していきたい。 ・定期試験や検定試験の前に学習すると回答した生徒は、1回目82%・2回目80%となった。次年度も、学習時の手立てと導き方を明確化し、主体的な学習につなげたい。 ・2学期末で成績不振科目のある生徒が10%以下であり、目標を達成した。0%になるように丁寧に指導が続いている。改善の方策等を職員間で共有していきたい。 ・教職員同士の共通認識と組織的な連携を図るために、毎月1~2回の「連絡・調整会議」を行っている。生徒情報の共有を行い、教職員が生徒一人ひとりの状態を捉えることで、生徒指導・学習指導が的確に行えた。また、職員間で協力しあい、生徒が充実した学校生活を送れる環境を整えた。生活指導については、生徒・保護者ともに95%以上が適切であると回答している。今後も生徒の気持ちに寄り添った丁寧な指導を心がける。毎日の打ち合わせもやっている。 ・担任との二者面談を各学期毎に実施して、「いじめ」を含む悩みや目標の設定について幅広く聞き取りを行うことができた。「生活アンケート」を実施して、「いじめ」の早期発見・早期対応・未然防止に努めることができた。また、生徒や外部から「いじめ」の可能性のある情報が入った場合は、該当生徒のクラス担任・生活指導係・教育相談係・管理職が話し合い、役割を分担して迅速かつ組織的に対応することができた。また、いじめや嫌がらせ行為が疑われた案件に対する、迅速かつ組織的に対応することができた。 ・欠席率は1学期が10.3%で2学期が9.3%、遅刻率は1学期2.4%で2学期が3.5%であった。欠席率、遅刻率ともに具体的数値項目をクリアしている。欠席率は2学期の方が良好になっている。ほとんどの生徒は生活リズムを確立させており、安定した登校状況にある。遅刻や欠席の場合には保護者から連絡が入るため、電話を介した状況が把握できる。同時に保護者との信頼関係も築ける。「規則正しい生活を送っている」の調査では、生徒、保護者ともに2回目の調査で数値が減少しており、不規則な生活リズムになっている生徒も数多いと思われるため今後も注視したい。外部講師を活用した健康被害の周知や、情報の時間での情報モラルの浸透、保健の時間での健康教育等を通して生活習慣の改善を図りたい。交友関係については、2回目の調査で生徒・保護者ともに多くが「うまくいっている」と回答している。今後も授業の中で、生徒同士の人間関係づくりや信頼関係の構築と、LHRにて対人関係のスキルを学ぶなどしていきたい。 ・「計画的な進路指導を行っている」と90%以上の生徒が回答している。外部講師による講義や大学・専門学校個別説明会を実施した。特に、上級生になるにつれて進路理解が高まった。また、キャリアパスポートの活用により、年間を通して自身の将来への在り方に向き合い、学校生活を充実させることができた。今後も日々の学びを生かしたキャリア教育を実践していきたい。 ・「進路実現に向けて積極的に取り組んでいる」と回答した生徒は、1回目の85%・2回目は86%であった。計画的な進路指導が生徒に浸透し、学校での指導が家庭での話し合いにつながっている。 ・保護者面談には、ほぼ全員の保護者が参加している。PTA総会の出欠確認および委任状の提出状況は90%であった。実施した2回目のアンケート調査では92%の保護者が学級面談、授業参観、PTA総会に参加しようと考えている。参加しやすいような日程や時間、内容等を検討していく。 ・情報を逐次更新し、生徒、保護者や中学生等外部の方に見てもらおうことを心がけている。特に、入試情報等は閲覧しやすいレイアウトを心がけ改善できた。92%の保護者が閲覧したことがあるという回答を受けた。次年度も引き続きよりよいHPを心がけていきたい。 ・生徒用タブレットPCの利便性が高まるように、保管の体制を整備した。教室で管理することで、PCの積極的な活用につながり、各授業で工夫して活用している。ICTの効果的な活用のために大学教授の講義を職員研修とした。次年度も、ICTを活用し、充実した授業準備と資料の活用を進めたい。 ・校内ネットワーク活用による会議資料のペーパーレス化や各種調査のアンケート集計等、情報の共有・可視化と業務の軽減・効率化を両立させることができた。桐生市ふれあいメールから移行した「すぐる」を活用し、生徒・保護者へ情報を提供した。 	
		⑤ 簿記や情報処理など資格取得に向けた指導に生徒の85%以上が満足している。	・各種検定試験合格に向けた授業等を工夫する。 ・生徒の実態に応じて、補習や課題を実施する。 ・アンケートによる実態把握を行う。	A	A	A		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥ 定期試験や検定試験のために学習をする生徒の割合が、85%以上である。	・学習の基礎・基本の定着のための授業内容及び指導法の改善を図る。 ・定期試験直前や試験中の家庭学習を促す指導を継続する。 ・アンケートによる実態把握を行う。	A	B	A		
		⑦ 成績不振科目を保有する生徒の割合が10%未満である。ただし、長期的に欠課が続いている者の成績不振は除く。	・単元ごとの確認テストで理解度の把握に努める。 ・観点別に評価することより、知識技能に偏らない評価をする。 ・単位の履修・修得の重要性を認識させ、不振科目をなくすための指導を、各学期ごとに全校集会等で行う。	B		B		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧ 職員打ち合わせ等において、生徒に関する情報交換を毎日実施している。	・毎日の職員打ち合わせや毎月2回程度の連絡調整会議等において生徒に関する情報交換を行い、全職員間での共通理解を図る。	A		A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が一丸となって生徒の指導にあたっていただき感謝している。先生同士の連携を密にさせていただき、今後も組織的な対応を行い、生徒を見守っていただきたい。 ・SNS等は便利であるが、危険も多く潜んでいる。社会問題にもなっているから、SNSに関する指導や、人との関わり方など継続して指導にあたっていただきたい。家庭とも連絡を密に取り合い、連携して生徒を守っていきたい。 ・生活アンケートの実施や、日頃から生徒が気軽に相談しやすい体制を整えており、問題の早期発見につながっている。今後も生徒の異変やSOSに気づくように心がけていただき、少しの変化も見逃さないような体制を整えてもらいたい。 ・生徒が安全に活動ができるような環境作りにも努めてもらいたい。特に、体育館の空調は命に関わる問題のため、市と協力して早急に改善が必要である。 ・今年度、卒業生全てが就職を希望している。体験活動や、講演を通して職業について考える機会を多く与えてほしい。早い段階から、進路に対する意識を高め、進路の実現のためにご指導いただきたい。 	
		⑨ 学校の生活指導(あいさつ、頭髮・服装、遅刻・早退指導等)が適切であると回答する生徒・保護者の割合が90%以上である。	・全生徒が充実した学校生活を送ることができるよう丁寧な指導・支援を継続する。 ・生徒及び保護者を対象としたアンケート調査により実態を把握する。	A	A	A		
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に取り組んでいますか。	⑩ 「学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に取り組んでいる」と認識している生徒が90%以上である。	・月1回の「生活アンケート」や定期的な個人面談等を実施し、その結果を毎日の職員打ち合わせや毎月2回程度の連絡調整会議において全職員で共有する。全職員で全生徒を指導する体制を確立する。 ・SNSの適切な利用法に関する教育、情報モラル教育を強化する。	A	A	A		
		⑪ いじめの解消率が100%である。	・いじめ行為が疑われる場合は、桐生市立商業高等学校いじめ防止委員会(定時制課程)が迅速かつ組織的に対応する。	A	A	A		
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	12 欠席率が10%以下、遅刻率が5%以下である。	・欠席率、遅刻率、早退率を把握する。 ・欠席、遅刻、早退に係る家庭への迅速な連絡を徹底し、保護者に協力と理解を求める。 ・欠席の理由や背景を保護者と共通理解し、状況に応じた指導及び家庭と連携した指導の充実を図る。 ・定期的な登校時指導や遅刻防止指導を行う。	A	B	A		
			⑬ 交友関係がうまくいっていると感じている生徒の割合が、90%以上である。	・養護教諭やSCを含めた教育相談体制を確立し、生徒の立場から相談しやすい人間関係を構築する。 ・学校あるいは外部機関における相談窓口を生徒及び保護者に積極的に周知する。 ・生徒を対象としたアンケート調査により、実態を把握する。	A	A		A
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑭ 「自己の生き方」と「将来の職業」とを関連させた進路指導を行っている、生徒の90%以上が評価している。	・外部機関と連携した定期的な進路ガイダンスやLHRにより体系的なキャリア教育を実施する。 ・アルバイト等の就業経験を生かした進路指導を行う。 ・定時制からの就職・進学について保護者対象の進路説明会を実施する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「計画的な進路指導を行っている」と90%以上の生徒が回答している。外部講師による講義や大学・専門学校個別説明会を実施した。特に、上級生になるにつれて進路理解が高まった。また、キャリアパスポートの活用により、年間を通して自身の将来への在り方に向き合い、学校生活を充実させることができた。今後も日々の学びを生かしたキャリア教育を実践していきたい。 ・「進路実現に向けて積極的に取り組んでいる」と回答した生徒は、1回目の85%・2回目は86%であった。計画的な進路指導が生徒に浸透し、学校での指導が家庭での話し合いにつながっている。 	
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮ 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が、80%以上である。	・個別面談を実施して各学年の段階に即した、きめ細かい指導を実践する。 ・全日制進路指導部やハローワークと連携し、情報収集を行い、進路の実現につなげる。	A	A		A
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑯ 保護者面談等に積極的に参加している保護者の割合が80%以上である。	・PTA総会、保護者面談の案内・返事の確認を徹底する。 ・アンケートによる実態把握を行う。	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・WebページやInstagramでの情報発信により、学校の様子が分かりやすくなっていることがありがたい。学校Webサイト大賞も受賞し、学校の魅力の発信のための努力が感じられる。学校の情報が分かるようになり、子どもとの会話も増えたことに感謝している。 	
		⑰ 学校評議員のうち1人は、定時制課程の関係者とする。	・意見を述べていただく機会を設け、定時制課程の取り組みや状況を地域社会にも伝える場面を設ける。	B	B	B		
		⑱ Webページの更新を速やかにし、Webページを見たことがある保護者の割合を80%以上である。	・在校生の活動状況や入試情報等、中学生や保護者が見たい情報を発信する。 ・Webページの更新を逐次行い、デザインを工夫する。また、重要な連絡や身近な出来事を掲載し閲覧を促す。 ・配布物にQRコードを載せ、Webページの閲覧を促す。	A	A	A		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑲ PCやプロジェクターなどを活用し、授業を行っている教員が100%である。	・タブレットとアプリを組み合わせ、グループワークや発表においてICT機器を効果的に活用できるよう工夫する。	B		B	<ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fiの環境については、改善が必要であると聞いている。これから生きる子ども達にとって不可欠なICTの活用については、力を入れて指導をお願いしたい。活用方法だけでなく、情報モラルや問題に巻き込まれないようにするための指導も引き続きお願いしたい。 	
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑳ 校内ネットワークを通して、分掌業務でICTを活用している教員が100%である。	・校内ネットワークを活用し、情報の共有化・可視化を図るとともに、業務の効率化を進める。 ・日程変更や緊急連絡等を桐生市保護者連絡ツール「すぐる」を活用し、情報を共有する。	A			A
※各学校で必要に応じて評価対象を加える。								